

【羽黒地域】 門前町歴史まちづくり推進事業

【事業年度：H30～】

取組の背景や経緯

■取組の背景

羽黒手向地区は、出羽三山神社の門前町として、神社仏閣が残るまちなみと古くから続く宿坊の営みが現在も続いているが、少子高齢化や生活環境の変化による建て替えの進行によって、宿坊街としての趣が徐々に失われつつある。

■取組の経緯

鶴岡市歴史的風致維持向上計画の重点区域に位置づけられ、東北公益文科大学大学院によるまちなみ調査や自治振興会主催の「手向を知る講座」によってその価値が再確認され、まちなみ景観の維持・保全を目的とした「まちづくり協定」が締結される等、景観に関する住民の意識が醸成されてきた。

事業概要

1. 宿坊街まちなみ保全及び修景整備促進事業

…歴史ある手向地区のまちなみ景観の保全・形成を促進するために、一定の条件を満たす建築物等の修景整備に対して補助を行う。

(H29年度に制度創設、H30年度より地域まちづくり未来事業に移行)

補助対象：住居・車庫等の建造物や門・塀の外構等

2. 門前町歴史まちづくり活動支援事業

…手向地区の歴史・文化やその魅力や価値を次代へ伝える講演会の開催、賑わいづくり活動の実施、手向地区地域ビジョンの策定支援等、手向地区の魅力を向上・発信する取組を支援する。

事業効果と今後の展望

■事業効果

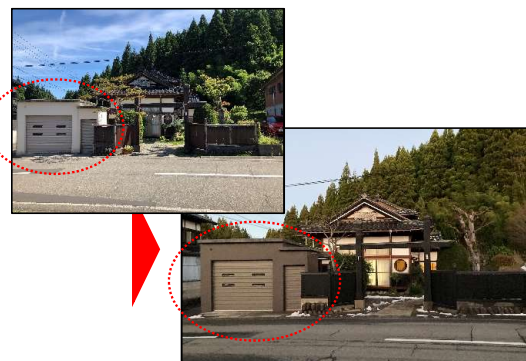
平成29年度から令和3年度までの5年間で32件の住居等が改修されたことで歴史的景観の連続性や統一感が向上し、令和3年6月には手向地区で一番世帯数の多い松原町で全10集落中9集落目となる「まちづくり協定」が締結される等、手向地区固有の価値を後世に残そうとする住民の意識がさらに高まっている。

住民意識の高まりは、かつての景観を再現した提灯ロードの整備やほたる祭りといった住民の自発的な活動として波及し、地域の一体感が醸成されている。

■今後の展望

手向地区地域ビジョンに基づく住民主体のまちづくり活動と連携しながら、さらに宿坊街の景観形成の促進を図り、観光振興、ひいては地域振興を図っていく。

宿坊街まちなみ保全及び修景整備促進事業（R3）



門前町歴史まちづくり活動支援事業
旧羽黒一小を活用した「手向春まつり」（R1）

